



# Via Latina 22

2024年5月 331号

## 総本部よりのお知らせーマリア会

ボルドーでのCEM会議（2024年4月2～5日）とマドレーヌ共同体への教会法上の視察訪問（2024年4月6～10日）	1
Pallanzaで教育責任者の会議	3
2023年～2024年 マリア会教育事業の統計（公式と非公式）	4
コンゴ特別地区とコートジボアール従属地区での任命	5
Ciudad Real の殉教者、若者への教育者	5
尊者Faustinoとの5月の祈り	7

### ボルドーでのCEM会議（2024年4月2～5日）とマドレーヌ共同体への教会法上の視察訪問（2024年4月6～10日）

4月2日から5日にかけて、ヨーロッパゾーンの責任者の会議（CEM）が行われました。会議それ自体はボルドー南40キロに位置するサン・シンフォリアンのIsabelle de Cantellauveが所有する家族的なゲストハウスにて行われました。ゾーンの議長、José María Alviraがこの会議を組織しました。

出席者はヨーロッパの各ユニットの情報交換を行いました。彼らは同時に、2023年10月にフリブルで開催されたヨーロッパマリア会員の素晴らしい会議の総括も行いました。スイスの兄弟たちからの歓迎がいかに模範的であり、この経験が成功への支えと成ったことが再度注目されました。

このCEMの中心的テーマは、ヨーロッパにおける再構築と、ヨーロッパのユニット間の協働の強化でした。構造的な変化は、私たち修道者とその事業体がそれらを支えるために十分なリーダーシップを有している、と保証することが時には必要かも知れません。このCEMのねらいは、また、孤立した個々の選択よりも、もっと好ましいグローバルなビジョンを進展させるために、全体として各ユニットの状況に視点を当てることでもありました。次の10月に、責任者たちは自分たちの評議員会に諮った後、この作業を続けるためローマで会議を開きます。



CEMの上長たち シャミナード師の部屋にて  
(左より)議長、José María Alvira士、Iñaki Sarasua師 (ES)、Davide Gozio師 (IT)、  
総長、Fr. André-Joseph Fétis師、Leo Müller師 (SU)、Jean-Edouard Gatuingt師 (FR)、  
Jean-Marie Leclerc士 (FR)、Helmut Brandstetter師 (OE)

CEM会議の最終日、午前をマドレーヌ計画の発展についての話し合いに充てました。この会議はマドレーヌの敷地で行われ、皆はそこで活動しているマリア会員の言葉に耳を傾け、そして彼らの温かい歓迎を受けることが出来ました。



福者シャミナード小聖堂にて

この会議に続いて、フランス地区長、Jean Marie士と総長、André-Joseph師はマドレーヌ共同体の教会法上の視察訪問を行いました。この共同視察は、マドレーヌの事業と共同体を総長評議員会の責任下に漸次移行させることに焦点を当てるものでしたが、このことの詳細は次の総会で承認されることとなります。

マドレーヌの会員たちは、この場所を私たちマリアニスト家族にとっての起源として生き生きと存続させる使命に非常に寛大に献身しており、それだけではなくまた、祈り、ミサ聖祭、あるいはゆるしの秘跡を通して自分たちの霊的バッテリーを充電するためにここを訪問する多くのボルドーの住民たちを温かく受け入れることにも喜んで身を挺しています。彼らに深く感謝します！ボルドーにおける国際的計画の目標はまた、私たちのカリスマを深めるために私たちマリア会員や他のマリアニストの枝のメンバーを広く受け入れることでもあります。近い将来、多くの人たちがこの選択をするよう私たちは願っています。各行政単位の責任者はこの目的のためマドレーヌ共同体にコンタクトすることが出来ます。どうかマドレーヌが、常に私たちのカリスマと宣教活動、そして福者シャミナードの考えが耀き出る場所となりますように！

---

## Pallanzaで教育責任者の会議

4月3日から5日にかけて、マリアニスト教育のヨーロッパ委員会の年次会議がマッジョーレ湖畔にあるパランツァのヴィラ・シャミナードにて開かれました。パランツァに在る共同体がこの会議の素晴らしいホスト役を果たしました。フランス、イタリア、スペイン、そしてオーストリアのマリアニスト教育の代表者は、ヨーロッパにおけるマリアニスト学校のための共通のプロジェクトを進展させるため定期的な会議を開いてきました。



パランツァのヴィラ・シャミナードの庭にて

これらの会議には、ヨーロッパのマリアニスト学校の経営者の最初の会議と、管理チームの次の会議を組織することが含まれることとなります。これら2つの会議は2025年11月に開催される予定です。

基本的な目標は、現在の状況における私たちのヨーロッパ学校のマリアニストのアイデンティティを再強化することです。私たちは異なるユニットへの教育学的訪問、および、先生と生徒が一緒になったErasmus+ projectsの進展を促進してきました。

---

## 2023年～2024年 マリア会教育事業の統計（公式と非公式）

2023年と同数の公式教育事業、100か所の2024年の統計データは、生徒数（2023年112,321名）と教育者数（2023年8,389名）双方で意味のある増加を示しています。これらに携わるマリア会員の数において若干の増加があり、特に発展しているユニットでの増加がみられます。これは関係ある行政単位が自分たちの教育的宣教活動の方向に沿って若いメンバーの育成を重要視しているとの重要な示唆を提供しているようです。これら100の教育施設は42の幼稚園、56の小学校、88の中学校、3つの技術学校、そして3つの大学が含まれています。これらの教育施設の多くは共学（83）ですが同様に16の男子校、或いは1つの女子校があります。この他に25の学生寮が世界の異なる地域に存在します。

これがユニットごとの公式教育事業の統計一覧表です。

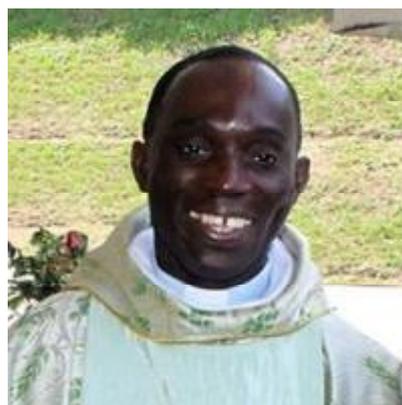
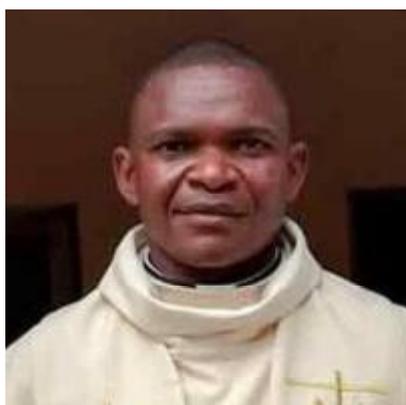
行政単位	学校数	生徒数	教員数	マリア会員	管理職	奉獻者数
ラテン・アメリカ	17	21469	1886	14	369	29
東アフリカ	9	5662	242	18	47	38
スペイン	20	24359	1763	20	125	57
フランス	10	11932	875	7	406	18
コートジボアール	2	2901	125	6	29	10
イタリア	1	1050	90	0	3	3
日本	4	5740	486	1	66	8
韓国	1	466	45	1	5	3
メリバ	3	4673	303	23	43	24
オーストリア	3	2417	243	0	23	3
トーゴ	3	1596	121	23	21	23
USA（大学以外）	17	11403	945	6	652	30
USA（大学）	3	16800	1126	6	632	41
USA（合計）	20	28203	2071	12	1284	71
インド	7	3666	167	30	19	31
<b>合計</b>	<b>100</b>	<b>114134</b>	<b>8417</b>	<b>155</b>	<b>2440</b>	<b>318</b>

非公式教育事業からのデータは、私たちが存在する異なる国と地域での取り組みの多様性を反映しながら、私たちの教育活動におけるその重要性において増加し続けています。

行政単位	事業数	生徒数	男子数	女子数	全教員数	一般教員数	奉獻者数
オーストリア	1	75	32	43	26	25	1
インド	4	257	115	142	19	12	7
スペイン	3	378	143	235	36	25	11
ラテン アメリカ	12	548	277	271	314	290	24
<b>合 計</b>	<b>20</b>	<b>1258</b>	<b>567</b>	<b>691</b>	<b>395</b>	<b>352</b>	<b>43</b>

更なる情報については皆さんWebsiteをご覧ください、[www.marianist.org](http://www.marianist.org). そこからSMマリアニスト教育一覧表の完全なデジタル版をダウンロード出来ます。

## コンゴ特別地区、コートジボアール従属地区での任命

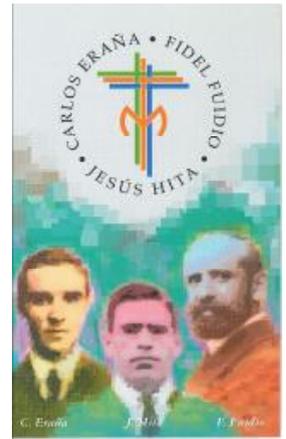


フランス地区長、Jean-Marie Leclerc士は彼の評議員会の同意を得て、2024年8月15日に始まるコンゴ特別地区長としてRomuald N'Lumbu Mfumu師（写真左）と、2024年8月1日に始まるコートジボアール従属地区長としてNoël Dominique Kouao Akobé 師（写真右）を再任しました。Romuald師とNoël師、どちらも2期目3年間の任期となります。

## Ciudad Real の殉教者、若者への教育者

シウダー・レアルのマリアニスト学校の卒業生たちは、3名のマリアニスト殉教者、Carlos Eraña 士とFidel Fuidio士 そして Jesús Hita士について忘れられない記憶を持ち続けています。これら3名は優れた修道者と言うだけではなく、善良な人格者で、偉大な若者の教育者として名声を残しました。

マリア会スペイン管区は、シウダー・レアルに在る無原罪の御宿りPopular校の運営を任されてきました。1916年に、この町のIrastorza司教はマリアニストにこの小教区の学校の運営を要請しました。Popular校は無料の慈善初等教育学校であり、また労働者の子供たちのための職業訓練校でした。管区長たちは、教育者としてのそのすばらしい才能を見込んで、Carlos士を校長として派遣しました。Carlos士は、人間関係において忍耐強く、親切で、敬意を持ち、そして優しい人でした。



Carlos士は早々に生徒たち、その家族、そして、市の役人や教育当局から好意と支持を得ました。毎朝、彼は校門で生徒たちを迎え、一人ひとりに挨拶をしました。管理や授業の義務に加え、この共同体にはマリアニスト司祭がいなかったため、Carlos士は、ロザリオを唱えること、アンジェラスの祈り、初聖体のための教理を教えることなど、生徒たちとの宗教的な活動を指導しました。彼は常々言っていました：“私の上着はスータンとしては短か過ぎる”。

共和党政権が、1933年6月に発せられた「宗教的信仰と修道会に関する法律」をもって、カトリック学校を迫害し始めた時、管区長たちは同年9月にFidel Fuidio士を1928-1929学年度に開校されたブラドのNuestra Señora中学校に派遣しました。Fidel士はこの町ではマリアニスト修道者として知られていませんでした。彼はマドリードのColegio del Pilarから来ましたが、そこで彼は上級生を20年間教えていました。Fidel士は考古学の論文でマドリード大学の歴史科学の博士号を持っていました。彼はスペインで生まれたばかりの2つの科学、考古学と古生物学の先駆者でした。外向的、友好的、そして快活な性格だった彼は、授業では大変革新的でした。彼は考古学への自分の情熱を生徒たちに伝える方法を知っていました。そして生徒らと共に、彼はマドリードとシウダー・レアルの近辺で発掘調査を行いました。Fidel士は学校教育を若者たちの間での福音宣教活動だと理解していました。彼は繰り返し言っていました：“一日の一番幸せな時は、私が教室のドアを開け、生徒たちに挨拶する時です”。



Jesús Hita士は全く反対の性格でした：内向的で、考え深く、人間関係は易しくはありませんでした；しかしながら、彼は深い宗教心を持ち、生真面目で、強い意志力を持ち備えていました。Fidel士同様歴史家であったJesús士は、勤勉で、聡明で、自分の授業をきめ細かく準備していました。

1932年9月、彼はシウダー・レアルのColegio de Nuestra Señora del Pradoに派遣されました。これは警察と教育当局からマリアニストとして目を付けられるのを避けるためでした。繰り返しのようになりますが、彼は自分の教職に全面的に身を捧げており、生徒たちとの学校活動に大変満足していました。ある上長が予言的に次のように報じています：“Jesús士は自分に期待されているものを超えて命を捧げ、しかもそれを寛大な心で捧げるでしょう”。彼の上長は、若いマリア会員の教職における全面的な献身に言及して次のように述べました：“しかし、神は私たちの活動をご自分に捧げるだけでなく、私たちの人生全体、私たちそのものを捧げるよう求めておられます。” Jesús士に教わった卒業生

私たちは、その親切さ、深い修道者的精神、そして、歴史の授業でのその解説において体系的で厳密な先生としての彼を記憶しています。

## 尊者Faustinoとの5月の祈り



母なるマリアさま、私たちはあなたの聖母月を過しています。  
あなたをもっと愛せるよう助けてください。  
落胆することのないように、  
より強い信仰が持てるよう助けてください。  
私の召命を堅固なものとするよう、  
私の義務にもっと忠実であるよう私を助けてください。  
時々私を襲う落胆に陥らないよう、私を助けてください。  
乙女マリアよ、私を助けてください。  
あなたは全てお出来になります。

(1962年5月7日)



### 福者シャミナードへの祈りの意向

1. 私たちはGuadalupe (グアダルーペ) 夫人の治癒のために福者G. Joseph Chaminadeへのノベナの祈りをお願いします。彼女は深刻な腸内出血で苦しんでいます。外科手術は大変慎重を要します。なぜならこの腸内出血はGuadalupe夫人が苦しんでいる直腸癌の領域に排出されるからです。彼女の息子、USA Ohio, Daytonの修練者であるPepe Gutiérrezがこの意向を要請しています。
2. 私たちはブラジルのEneida (エネーダ) 夫人のために福者G. Joseph Chaminadeへのノベナの祈りをお願いします。彼女の夫の死後、Eneida夫人はブラジルで増えている心理・精神治療センターに通い始めました。このセンターに通いながらEneida夫人は彼女に薬物とアルコールを使用するよう誘導する男性との関係に縛られ、これが深刻な心理的問題の要因となっています。彼女の息子、Matheusが、母がこの関係を断ち切ることが出来るよう福者Chaminadeへの祈りを要請しています。なぜならこれが家族に深刻な対立をもたらしているからです。

## 最近の総本部通信

- 4月27日： 第36回総会：総長評議員会の報告書、準備委員会より3ヶ国語で全マリア会員に送付。
- 4月20日： 第36回総会：総会連絡#6とInstrumentum Laboris (IL.2) の最終版、準備委員会より3ヶ国語で第36回総会の代議員に送付。
- 4月22日： 第36回総会：総会報#3、準備委員会より3ヶ国語で全マリア会員に送付。
- 4月27日： 第36回総会：Instrumentum Laboris (IL.2) 付録 3 準備委員会より3ヶ国語で第36回総会の代議員に送付。

## 総本部日程

- 4月22日－5月6日：教育局長、Maximin Magnan士がトーゴ地区を訪問。
- 5月1日－6日：総長、André-Joseph Fétis師と霊生局長、Pablo Rambaud師がインドの新たな地区開設の機会にインドを訪問する。